2. 農林水産空間の保全・利用を推進する

農山漁村の振興により、豊かな自然環境や生物多様性保全、良好な景観形成等多面的機能の発揮を図る。

(1)農林水産空間の保全・利用を担う人材の 確保と育成

(2)農林水産空間の保全・利用の推進

(農村地域における対策)

・中山間地域等への 支援を行うとともに、 地域ぐるみで行う共同 活動に対する支援を 行う。



中山間地域

(山村地域における対策)

・農林複合経営や森林サービス産業等を推進。



アウトドアスポーツの場の提供

(漁村地域における対策)

・研修支援などを通じて新規就業者の確保を図る。

(農山漁村の活性に向けた対策)

地域ぐるみの有機農業の実践、ビオトープ、水田魚道の設置、里地里山の整備等、生物多様性保全の多岐に渡る取組を推進。



指定棚田地域の保全整備

(里山林の継続的利用に向けた対策) 地域等との連携による森林づくり 活動への支援、里山林の活用 方策の検討等により里山林の多 面的・継続的な利用を促進。



里山林(竹林)整備



直売所・農家レストラン

(漁村環境の保全・利用の推進) 都市と魚村の交流、・定住の推 進による水産業・漁村の活性 化を図る。



漁業活動を通じた交流

2. 農林水産空間の保全・利用を推進する

(3) 森里川海を通じた生物多様性保全の推進

(田園地域における生物多様性保全の推進)

・生物多様性保全に対応した基盤整備を推進するとともに、 田園地域や里地里山の環境整備を推進。



農業農村整備

(都市部周辺における生物多様性保全の推進)

・都市農業の振興を通じ、身近に生きものとふれあえる空間 づくりを推進。



農業体験・交流活動の場

(森里川海の一体となった生物多様性保全の推進)

・田園地域・里地里山における生物多様性をより重視した農業生産、漁場 保全のための森林整備等森里川海の生物多様性の取組を積極的に推進。



漁場海域環境の創出 (イメージ図)

(4) 生態系を活用した防災・減災の推進

- ・頻発化、激甚化する災害に対応した排水施設整備・ため池対策や流域治水の取組等により農業・農村の強靱化を推進。
- ・保安林等における治山施設の設置、機能の低下した森林の整備、海岸防災林等の整備等の治山対策を推進。



ため池の多様な生態系



海岸防災林

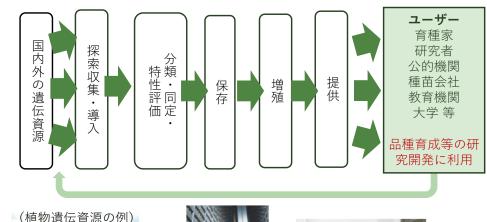
3. 遺伝資源の保全と持続可能な利用の推進

食料・環境・エネルギー問題の解決に貢献する貴重な遺伝資源を収集し、次世代に引き継ぐとともに、持続的な利用を推進。

(1)農林水産業にとって有用な遺伝資源の 保全と持続可能な利用の推進

・在来品種や作物近縁野種等の遺伝資源の収集と持続可能な保全、特性評価の強化、超低温保存技術による保存の効率化、研究材料の配布による研究支援の強化、遺伝子の機能解明と利用技術の開発により、新品種の育成や新産業の創出を図る。

農業生物資源ジーンバンク事業の取組



海外での遺伝資源の 探索・収集

保存 (種子貯蔵庫)



提供(種子の出庫作業)

(資料:全て農研機構)

(2)遺伝子組換え農作物等の規制による 我が国の生物多様性の確保

- ・遺伝子組換え農作物等については、カルタヘナ法に基づき、
- ① 生物多様性への影響等を科学的に評価し、生物多様性に影響を与えないことが確認されたもののみ、栽培や流通等を承認
- ② 生物多様性への影響が未確認のものが流通しないよう、栽培用の種子等について水際での検査
- ③ 万一生物多様性への影響が未確認のものが流通してしまった場合は、回収や使用中止の命令の発出
- ④ 生物多様性への影響を評価するために必要な新たな科学的知 見の集積、検査技術の開発、国民への情報提供等を実施。

カルタヘナ法に基づき承認された遺伝子 組換え農作物数(令和3年9月3日現在)

作物名	一般的な使用(食用・飼料用とし ての輸入、流通等)
トウモロコシ	9 1
ワタ	3 8
ダイズ	3 0
セイヨウナタネ	1 7
アルファルファ	5
パパイヤ	1
テンサイ	1
カーネーション	8
バラ	2
ファレノプシス	1
計	194



遺伝子組換え技術により開発され、 カルタヘナ法に基づく承認に向け研究が進められている青いキク(資料:農研機構)

4. 農林水産分野における地球環境保全への貢献

生物多様性、気候、環境を一体としてとらえ、国内外の多様な主体と協働で問題解決に取り組むことで、 2030ビジョンの実現を図る。

(1)複数の地球環境課題の 同時解決を目指す

(2) 気候変動と生物多様性

(3)世界の森林生態系保全・再生への貢献

プラネタリーバウンダリー、SDGs における複数の環境課題の同時解決

- ・2050年カーボンニュートラルの実現。
- ・農作物の安定的な供給と持続可能な調達。



- ・砂漠化防止、水資源の持続的利用、 気候変動適応・緩和などの地球環境 保全に積極的に貢献。
- ・サプライチェーンの各主体が、地 球環境課題に対して一体的な取組を 進める。

農林水産省の取組

みどりの食料システ ム戦略

生物多様性戦略 温暖化対策計画 気候変動適応計画 国際的な議論

国際環境条約 CBD、UNFCCC等 政府間の科学と政 策のプラットフォーム IPBES、IPCC等 SDGsにおける自然資本のゴールは互いに関係しており、特に気候変動と生物多様性の課題は深い関係がある。



出典:Stockholm Resilience Centre (illustrated by Johan Rockstorm and Pavan Sukhdev, 2016)

気候変動と生物多様性の課題解決の 取組にはシナジーとトレードオフが あるため、農林水産施策においては 一体的に取り組み、SDGsの達成に 貢献していく。

シナジー

生態系の損失と劣化を食い止める

持続可能な農林業

ロスや廃棄物の削減

トレードオフ

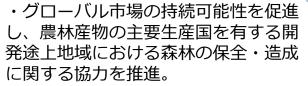
再生可能エネルギー生 産のための大量の土地 消費

バイオエネルギー作物の 大面積での単一栽培

IPBES-IPCC 合同ワークショップ報告書(2021年6月)

地球規模の森林生態系の保全・再生

- 責任ある農業の実践。
- ・森林やその他の重要な生態系のより良い保全と保護。



・農地開発や資源収奪的な農業生産による森林の減少や劣化を食い止める。

国際的な議論への参画

国連森林戦略計画2017-2030

森林・農業・コモディティ貿易(FACT)対話

国連森林フォーラム(UNFF)

モントリオール・プロセス

国際熱帯木材機関(ITTO)

REDD+(レッドプラス)等